



OFFICIAL NEWS LETTER

21 Jan. 2016 Vol.236

J.LEAGUE™ NEWS

新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

24年目を迎えるJリーグは、新たに鹿児島ユナイテッドFCが入会し、53クラブとなりました。誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを担う仲間がまた一つ増え、Jリーグのホームタウンは38都道府県に拡大しました。

さらなる発展のために今シーズンもJリーグは挑戦を続けてまいります。昨年から新しい大会方式を採用している明治安田生命J1リーグは、チャンピオンシップの大会方式をより分かりやすく変更し、2年目を始動します。年間勝点が昨年の方式より重視される他、90分間で勝敗の決まる頂上決戦に、選手たちには一層強いメンタリティーが求められます。勝敗を左右した多くの逆転ゴールが生まれた昨年以上の、フェアで白熱した試合を期待していただきたいと思います。

昨年末、全世界が見守る中、サンフレッチェ広島がFIFAクラブワールドカップで第3位となりました。世界へ通ずる戦いは早くも来月からAFCチャンピオンズリーグ(ACL)が始まり、Jリーグのサンフレッチェ広島、ガンバ大阪、浦和レッズ、FC東京という4クラブがアジアナンバーワンの座を目指して戦います。昨年、開催国代表で出場したクラブワールドカップに、ことしはアジア代表として決勝の舞台を目指すべく、日本サッカー協会(JFA)の協力のもとJリーグ、Jクラブ一丸となって挑んでまいります。

世界で戦えるための選手の強化は日本サッカー共通の課題です。明治安田生命J3リーグには、新たにJ1、J2の23歳以下の選手で構成するU-23チームが3チーム挑戦します。J2昇格を目指し本気で戦うチームとの公式試合は、これ以上ない成長の場になると確信しています。Jサテライトリーグも2009年以来7年ぶりに9チームで再開いたします。JFAと協働して進める育成年代の国際経験の創出や、育成評価システムの導入も本格的に推進してまいります。8月にはリオデジャネイロオリンピックが開催され、U-23日本代表もぜひ出場権を獲得し、Jリーグで活躍する選手たちのさらなる成長につなげてもらいたいと思います。

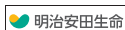
ファン・サポーターの皆さんには、デジタル技術を駆使し、身近なメディアを通じてプレーの動画やあらゆるデータを楽しんでいただけるよう取り組みを強化してまいります。2月にこけら落としとなる市立吹田サッカースタジアムを皮切りに、サッカースタジアムの新設、改修の動きも全国で芽吹いています。ソフト、ハード両面からの観戦環境の向上に取り組んでまいります。

本年もJリーグの活動に対し、ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

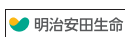
2016年1月

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ チェアマン 村井 満

J.LEAGUE™ TITLE PARTNER



J.LEAGUE™ TOP PARTNERS



2016年Jリーグオフィシャルパートナー契約

Jリーグは12月15日に開催した理事会で、下記のとおりJリーグオフィシャルパートナー契約を締結することを決定した。

※2015年12月15日時点

| カテゴリー／契約社名 | 契約開始年 |
|-----------------------------------|--------|
| Jリーグタイトルパートナー | |
| 明治安田生命保険相互会社 | 2015年～ |
| Jリーグトップパートナー | |
| キャノン株式会社／キャノンマーケティングジャパン株式会社 | 1996年～ |
| 株式会社アイデム | 2005年～ |
| 明治安田生命保険相互会社 | 2014年～ |
| 株式会社コロブラ | 2015年～ |
| ルートインジャパン株式会社 | 2015年～ |
| 株式会社ECC | 2015年～ |
| イオンリテール株式会社 | 2015年～ |
| Jリーグ百年構想パートナー | |
| 朝日新聞社 | 2003年～ |
| リーグカップスポンサー | |
| ヤマザキナビスコ株式会社 | 1992年～ |
| スーパーカップスポンサー | |
| 富士ゼロックス株式会社 | 1994年～ |
| Jリーグオフィシャルエキップメントパートナー | |
| アディダス ジャパン株式会社 | 2005年～ |
| 株式会社モルテン | 1993年～ |
| Jリーグオフィシャルブロードキャスティングパートナー | |
| スカパーJSAT株式会社 | 2007年～ |
| スポーツ振興パートナー | |
| 独立行政法人日本スポーツ振興センター | 2003年～ |
| Jリーグオフィシャルチケットングパートナー | |
| びあ株式会社 | 2012年～ |
| Jリーグサポーターティングカンパニー | |
| ヤフー株式会社 | 2015年～ |

実行委員選任・参与選任

Jリーグは12月15日に開催した理事会で、以下のように実行委員の変更および選任、参与の選任を承認した。

敬称略

| 実行委員 | | |
|--|----------------------------------|--|
| クラブ名 | 変更前 | 変更後 |
| モンテディオ山形 | 高橋 節 株式会社モンテディオ山形 代表取締役社長 | 森谷 俊雄(もりや としお) 株式会社モンテディオ山形 代表取締役社長 |
| FC岐阜 | 恩田 聖敬 株式会社岐阜フットボールクラブ 代表取締役社長 | 宮田 博之(みやた ひろゆき) 株式会社岐阜フットボールクラブ 代表取締役社長 |
| ギラヴァンツ北九州 | 横手 敏夫 株式会社ギラヴァンツ北九州 代表取締役社長 | 原 憲一(はら けんいち) 株式会社ギラヴァンツ北九州 代表取締役社長 |
| 実行委員選任(新任) J3入会クラブ | | 参 与 |
| 鹿児島ユナイテッドFC 徳重 剛(とくしげ つよし) 株式会社鹿児島フットボールプロジェクト 代表取締役 | | 氏 名 横手 敏夫(よこて としお) 実行委員 2010年1月～15年12月 在任期間 (在任期間5年11カ月) |

2016 Jリーグ 大会方式などの変更点

2016 Jリーグの大会方式について、昨年からの変更点は以下のとおり。

| 大会 | 変更点 | 理由 |
|------------------|--|--|
| 明治安田生命 J1リーグ | 変更なし | |
| Jリーグチャンピオンシップ | 右記参照 | |
| Jリーグ ヤマザキナビスコカップ | AFCチャンピオンズリーグプレーオフ出場チームが敗退した場合、Aグループに入る。 【名称変更】予選リーグ→グループステージ 決勝トーナメント→ノックアウトステージ | |
| J1昇格プレーオフ | 決勝は、決勝進出クラブのJ2リーグ戦成績上位クラブのホームスタジアムで開催する。 | 国立競技場が改修中で、中立地での開催ができない場合があり、また、リーグ戦成績上位クラブの優位性が確保されない場合があるため。 |
| 明治安田生命 J2リーグ | 変更なし | |
| 明治安田生命 J3リーグ | 試合エントリー選手数、交代選手数、外国籍選手数をJ1・J2と同様のルールとする。 U-23チームを含む16クラブとなることで、3回戦総当たりリーグ戦から2回戦総当たりリーグ戦に変更。 | これまでJ1・J2と競技レギュレーションを区別して定めていたが、J2・J3入れ替え戦では、ホームゲームとアウェイゲームでレギュレーションが異なるなどの課題があったため。 |
| J2・J3入れ替え戦 | J3リーグの競技レギュレーション変更に伴い、J2クラブ、J3クラブどちらのホームゲームも、同一の競技レギュレーションで開催する。 | |

2016 Jリーグクラブ編成

| J1 (18クラブ) | J2 (22クラブ) | J3 (13クラブ+U-23チーム) |
|--|---|--|
| ベガルタ仙台 鹿島アントラーズ 浦和レッズ 大宮アルディージャ 柏レイソル FC東京 川崎フロンターレ 横浜F・マリノス 湘南ベルマーレ ヴァンフォーレ甲府 アルビレックス新潟 ジュビロ磐田 名古屋グランパス ガンバ大阪 ヴィッセル神戸 サンフレッチェ広島 アビスパ福岡 サガン鳥栖 | 北海道コンサドーレ札幌※1 モンテディオ山形 水戸ホーリーホック ザスパクサツ群馬 ジェフユナイテッド千葉 東京ヴェルディ FC町田ゼルビア 横浜FC 松本山雅FC ツエーゲン金沢 清水エスパルス FC岐阜 京都サンガF.C. セレッソ大阪 ファジアーノ岡山 レノファ山口FC カマタマーレ讃岐 徳島ヴォルティス 愛媛FC ギラヴァンツ北九州 V・ファーレン長崎 ロアッソ熊本 | グルージャ盛岡 ブラウブリッツ秋田 福島ユナイテッドFC 栃木SC Y. S. C. C. 横浜 SC相模原 AC長野パルセイロ カターレ富山 藤枝MYFC ガイナレ鳥取 大分トリニータ 鹿児島ユナイテッドFC※2 FC琉球 ----- FC東京U-23 ガンバ大阪U-23 セレッソ大阪U-23 太字・下線：2015シーズンからの変更箇所(昇降格) ※1：2016年2月1日よりクラブ名変更 ※2：新規入会クラブ |

2016明治安田生命 J3 リーグへ参加するU-23チームが決定

Jリーグは12月15日に開催した理事会で、2016明治安田生命 J3 リーグへ参加するU-23チームを、FC東京、ガンバ大阪、セレッソ大阪の3チームにすることを決定した。U-23チームのJ3リーグ参加は、Jリーグの理念の具現化を念頭に、18歳から23歳の選手の試合出場機会を創出し、将来有望な選手の強化・育成に寄与することを目的とする。2016明治安田 J3 は、上記のU-23チームを加えた全16クラブで、ホーム&アウェイ方式による2回戦総当たりリーグ戦、全30節／240試合で開催する。

2016 シーズンよりJサテライトリーグが再開

Jリーグは12月15日に開催した理事会で、2016シーズンより「Jサテライトリーグ」を再開することを決定した。同リーグは、Jリーグ理念の具現化を念頭に、18歳から23歳の選手の試合出場機会を創出し、将来有望な選手の強化・育成に寄与することを目的とし、J1クラブのうち参加を希望するクラブを対象に開催する。参加クラブは以下のとおり。

| Jサテライトリーグ 参加クラブ |
|---|
| ベガルタ仙台／鹿島アントラーズ／川崎フロンターレ／横浜F・マリノス／湘南ベルマーレ アルビレックス新潟／名古屋グランパス／ヴィッセル神戸／サンフレッチェ広島 |

2016 Jリーグチャンピオンシップ 大会方式および試合方式

Jリーグは、Jリーグチャンピオンシップについて2015年の実施実績を踏まえ、組み合わせをより分かりやすく、また、リーグ戦成績上位チーム優位の一貫性を確保することを目的に、16年より大会方式および試合方式の一部を以下のように変更することを決定した。

| | 2015年 | 2016年以降 |
|--------|---|---|
| シード順 | ①明治安田 J1年間勝点1位 ②明治安田 J1ステージ優勝で年間勝点上位 ③明治安田 J1ステージ優勝で年間勝点下位 ④明治安田 J1年間勝点2位 ⑤明治安田 J1年間勝点3位 | ①明治安田 J1年間勝点1位 ②明治安田 J1年間勝点2位 ③明治安田 J1年間勝点3位 ④明治安田 J1ステージ優勝で年間勝点上位 ⑤明治安田 J1ステージ優勝で年間勝点下位 |
| 勝敗決定方法 | 【1回戦、準決勝】90分間(前後半各45分)の試合を行い、勝敗が決しない場合は、30分間(前後半各15分)の延長戦。それでも勝敗が決しない場合は、PK方式によって決定。 【決勝】ホーム&アウェイ方式で、アウェイゴールを採用。勝敗が決しない場合、30分間(前後半各15分)の延長戦を行い、それでも勝敗が決しない場合は、PK方式によって決定(延長戦のアウェイゴールは考慮しない)。 | 【1回戦、準決勝】90分間(前後半各45分)の試合を行い、勝敗が決しない場合は、年間勝点上位チームを勝者とする(延長戦、PK方式なし)。 【決勝】ホーム&アウェイ方式で、アウェイゴールを採用。勝敗が決しない場合、年間勝点1位チームを勝者とする(延長戦、PK方式なし)。 |

2016 Jリーグ 年間スケジュール

※ J1昇格プレーオフ、J2・J3入れ替え戦は、開催しない可能性がある
※ 日程は変更になる場合がある

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------------------------|----|---------------------------------------|--|----|---------------|----|--------------------------------------|-----------------|----|-----|---|-----|
| Jリーグ | | 明治安田生命 J1 LEAGUE | [1stステージ 第1~17節] 2/27(土)~6/25(土) | | | | [2ndステージ 第1~17節] 7/2(土)~11/3(木・祝) | | | | Jリーグチャンピオンシップ 11/6(日) 11/27(日) 12/3(土) 12/4(日) | |
| Jリーグ ヤマザキナビスコカップ | | 2016 J.LEAGUE YAMAZAKI NABISCO CUP | グループステージ 1 2 3 4 5 6 7 | | | | 準々決勝 1 2 | 準決勝 決勝 1 2 3 | | | Jリーグアウォーズ★12月開催 | |
| J2リーグ | | 明治安田生命 J2 LEAGUE | 第1~42節 2/28(日)~11/20(日) | | | | | | | | J2・J3入れ替え戦 11/27(日) 12/4(日) | |
| J3リーグ | | 明治安田生命 J3 LEAGUE | 第1~30節 3/13(日)~11/20(日) | | | | | | | | | |
| AFCチャンピオンズリーグ2016 | | 東地区プレーオフ 2/9(火) | グループステージ 第1~6節 2/23(火)~5/4(水・祝) | | ラウンド16 1 2 | | 準々決勝、準決勝、決勝 未定 | | | | | |
| AFC U-23選手権カタール2016 | | 1/12(火)~1/30(土) | 3/24(木) vs アフガニスタン(埼玉) 3/29(火) vs シリア(埼玉) | | | | | | | | | |
| 2016 FIFAワールドカップロシアアジア2次予選 | | | | | | | | | | | | |
| キリンカップサッカー2016 | | | | | | | | | | | | |
| U-23日本代表 予定 | | | | | | | | | | | | |
| リオデジャネイロオリンピック2016 | | | | | | | | | | | | |
| FIFAクラブワールドカップ2016 | | | | | | | | | | | | |
| その他の大会 | | | | | | | | | | | | |

Jリーグチャンピオンシップ／準決勝および決勝第1戦は、ACL出場クラブの勝ち上がり状況により、準決勝：11/22(火)、決勝第1戦：11/30(水)に変更となる可能性がある

2016 シーズン追加登録期限

Jリーグは、2016シーズンの明治安田生命Jリーグ(J1・J2・J3)およびJリーグヤマザキナビスコカップの出場資格を得るための選手追加登録期限を下記のとおり決定した。

| 大会名 | 追加登録期限 |
|----------------------|---------------|
| 明治安田生命Jリーグ(J1・J2・J3) | 2016年9月16日(金) |
| Jリーグヤマザキナビスコカップ | 2016年9月30日(金) |

選手の登録は原則として、あらかじめ日本サッカー協会(JFA)が国際サッカー連盟(FIFA)に届け出た年に2回の登録期間(ウインドー)に限って認められるが、この規定には若干の例外ケースが設けられている。この例外を適用できる期間を追加登録期限として、各大会の実施要項に定めている。

※ 追加登録期限の決定においては従来、下記ルールを参照している

リーグ戦：シーズンの4分の3を過ぎての追加登録を不可とする

カップ戦：準決勝第1戦以降の追加登録を不可とする

※ 育成型期限付移籍などの運用上の分りやすさのため、これまでリーグ戦の追加登録期限を同日にしている

※ 原則として、選手の登録(移籍)は、下記の登録期間(ウインドー)中にのみ可能となるが、登録期間(ウインドー)の例外が認められる登録(移籍)を含む全ての登録(移籍)に関する期限として、Jリーグで定めるものである

2016 シーズン登録期間(ウインドー)

| | |
|---------------|-----------------------|
| 第1登録期間(ウインドー) | 2016年1月8日(金)~4月1日(金) |
| 第2登録期間(ウインドー) | 2016年7月1日(金)~7月29日(金) |

JFAは、FIFAの規則に基づき、登録期間(ウインドー)を定めている。FIFAは各国協会に対し、年2回の登録期間(ウインドー)を設けることを義務づけており、第1登録期間(ウインドー)は、シーズンとシーズンの間に最大12週間、第2登録期間(ウインドー)はシーズン中に最大4週間の期間と定められている。FIFAおよびJFAの規則に基づき、JリーグおよびJFLのクラブへの選手の登録(移籍)は、一部の例外を除き、原則として登録期間(ウインドー)の期間中においてのみ可能となる。2015シーズン以降のJ1大会方式変更に伴い、J1 2ndステージに向けた選手補強を可能にし、二つのステージの区切りをより分かりやすくするため、上記のとおり、第2の登録期間(ウインドー)を設定した。

松本山雅FC ホームタウン追加

Jリーグは12月15日に開催した理事会で、松本山雅FCがホームタウンを追加することを承認した。池田町が新たにホームタウンとなる。

| 松本山雅FC ホームタウン ※太字は追加された市町村 | |
|----------------------------|----------------------------------|
| 変更前 | 松本市、塩尻市、山形村、安曇野市、大町市 |
| 変更後 | 松本市、塩尻市、山形村、安曇野市、大町市、 池田町 |

U14 Asean Dream Football Tournament 2015 を後援

Jリーグは、2015年12月20~25日にタイのムアントン・ユナイテッド練習場で開催された「U14 Asean Dream Football Tournament 2015」(主催：U14 Asean Dream Football Tournament 2015 大会実行委員会)を後援した。また、元Jリーグ選手の木場昌雄氏(Jリーグアジアアンバサダー)が大会アンバサダーを務めた。

2016 Jリーグ公式試合球として「ERREJOTA(エレホタ)」を使用

Jリーグは、2016 Jリーグ公式試合球として、Jリーグオフィシャルエクイップメントパートナーである株式会社モルテンの提供を受け、アディダスの「ERREJOTA(エレホタ)」を使用する。また、2016 Jリーグヤマザキナビスコカップでは、ERREJOTAの特別デザイン試合球を使用する。

ERREJOTA(エレホタ)

【デザインの由来】-----

ERREJOTA(エレホタ)は、ブラジルのリオデジャネイロよりインスピレーションを得ている。国旗へのオマージュとなるグリーンとイエローに彩られ、リオのビーチに沿った歩道とウェーブ(波)のデザインとなっている。

【ボールの特長】-----

2015 Jリーグ公式試合球「コネクト15」同様、6枚、同一形状パネルにより構成されている。これによって、ボールバランスと飛行安定性が向上。また、ブロックデザインによって飛行時の視認性を高めている。



2016 Jリーグ
公式試合球



2016 Jリーグヤマザキ
ナビスコカップ公式試合球

第1回ソーシャルフットボール国際大会を後援

Jリーグは12月15日に開催した理事会で、2月24日(水)~29日(月)に開催される「第1回ソーシャルフットボール国際大会(主催：特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、国際ソーシャルフットボール委員会(仮称))」を後援することを決定した。

同大会は、フットボール・フォー・オールの実現のもと、国内外の精神障がい者フットボール競技の振興、発展に寄与することを目的として開催する。また、フットボールを通じて精神障がい者の社会参加を推進しつつ、共生社会の実現への貢献も目指す。堺市産業振興センターでシンポジウム、J-GREEN堺で国際フットサル(精神障がい者のみ)／8人制サッカー競技会(健常者とのミックス)が行われる。

SAJ2015ースポーツアナリティクスジャパン2015を後援

Jリーグは、2015年12月19日に日本科学未来館で開催された「SAJ2015ースポーツアナリティクスジャパン2015」(主催：一般社団法人日本スポーツアナリスト協会)を後援した。同カンファレンスは、競技種目や役職などの枠を超えて、スポーツアナリストに必要な技能、知識、職能を共有し、研さんの場にするを目的に実施した。

第95回 天皇杯全日本サッカー選手権大会

ガンバ大阪が2連覇。「FUJI XEROX SUPER CUP 2016」で サンフレッチェ広島と対戦

第95回天皇杯全日本サッカー選手権大会は1月1日に味の素スタジアムで決勝が行われ、ガンバ大阪が浦和レッズに2-1で競り勝ち2連覇、5度目の優勝を飾った(前身の松下電器産業時代を含む)。

2年ぶりの元日開催となり、4万3809人の入場者が見守る中で行われた一戦で、32分に先手を取ったのはG大阪。FWパトリックがドリブル突破から豪快に決めた。浦和はその4分後にFW興梠慎三が同点ゴールを挙げたが、勝負を決めたのはまたもパトリックの得点。53分にMF遠藤保仁が蹴った右CKを、右足ワンタッチで合わせた。

2014シーズンは国内三冠を成し遂げたものの、今シーズンは明治安田生命J1リーグ、Jリーグヤマザキナビスコカップのタイトルにはあと一步届かず、その「悔しい気持ちがチーム、選手を成長させてくれた」とG大阪の長谷川健太監督。「もっと素直にうれしさがこみ上げると思ったが、ほっとした感じの方が強い」と語ったのは、今シーズン初のビッグタイトルを最後のチャンスで獲得した安堵感だろう。

なお、この結果によって、Jリーグのシーズン開幕を告げる2月20日(土)開催の「FUJI XEROX SUPER CUP 2016」は、明治安田J1チャンピオンのサンフレッチェ広島とG大阪が顔を合わせる事になった。当日は同大会に先立ち、U-18 Jリーグ選抜と日本高校サッカー選抜が対戦するNEXT GENERATION MATCHも行われる。



© J.LEAGUE PHOTOS

浦和に競り勝って2連覇を果たしたG大阪。キャプテンの遠藤が天皇杯を高々と掲げる

| FUJI XEROX SUPER CUP 2016 開催概要 | |
|--------------------------------|--|
| 大会名称 | FUJI XEROX SUPER CUP 2016 |
| 主催 | 公益財団法人 日本サッカー協会 / 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ |
| 主管 | 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ / 一般社団法人 神奈川県サッカー協会 |
| 特別協賛 | 富士ゼロックス株式会社 |
| 開催日時 | 2016年2月20日(土) 13:35キックオフ |
| 会場 | 日産スタジアム |
| 対戦カード | サンフレッチェ広島(2015 明治安田生命 J1リーグチャンピオン) vs ガンバ大阪(第95回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝) |
| テレビ中継 | 日本テレビ系全国ネットにて生中継 |

| NEXT GENERATION MATCH 開催概要 | |
|----------------------------|---|
| 名称 | FUJI XEROX SUPER CUP 2016 「NEXT GENERATION MATCH U-18 Jリーグ選抜 vs 日本高校サッカー選抜」 |
| 主催 | 公益財団法人 日本サッカー協会 / 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ |
| 主管 | 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ / 一般社団法人 神奈川県サッカー協会 |
| 後援 | 公益財団法人 全国高等学校体育連盟 |
| 協力 | アディダス ジャパン株式会社 / ブーマ ジャパン株式会社 |
| 特別協賛 | 富士ゼロックス株式会社 |
| 開催日時 | 2016年2月20日(土) 10:20キックオフ |
| 会場 | 日産スタジアム |
| 対戦カード | U-18 Jリーグ選抜 vs 日本高校サッカー選抜 ※ ※第94回全国高等学校サッカー選手権大会の優秀選手を中心に選抜された選手で構成するチーム |
| 試合方式 | 70分(前後半各35分)の試合を行い、勝敗が決しない場合は引き分け |
| チケット | 観戦には「FUJI XEROX SUPER CUP 2016」のチケットが必要となる。 |

AFCチャンピオンズリーグ2016 グループステージ

アジアサッカー連盟(AFC)は昨年12月10日、マレーシアのベタリンジャヤでAFCチャンピオンズリーグ(ACL)2016 オフィシャルドロー(組み合わせ抽選会)を行い、グループステージ組み合わせが決定した。さらに第95回天皇杯全日本サッカー選手権大会の結果を受けて、日本からの出場チームおよびグループなどが下表のように確定した。

グループステージから出場する日本のクラブはサンフレッチェ広島(明治安田生命J1リーグ優勝)、ガンバ大阪(同2位、第95回天皇杯優勝)、浦和レッズ(同3位)。前回のACLで優勝した広州恒大(中国)はグループHに入り、浦和などに対戦する。

同4位のFC東京は2月9日(火)に東京スタジアム(味の素スタジアム)で開催されるチョンブリFC(タイ)またはヤンゴン・ユナイテッド(ミャンマー)との東地区プレーオフに勝てば、グループEに入る。同ステージは2月23日(火)、24日(水)から5月3日(火・祝)、4日(水・祝)まで行われる。

| AFCチャンピオンズリーグ2016 グループステージ(東地区) | |
|---------------------------------|--|
| 【グループE】 | 全北現代モータース(韓国) / 江蘇舜天(中国) ビン・ズオン(ベトナム) / 東地区プレーオフ勝者2 |
| 【グループF】 | サンフレッチェ広島(日本) / FCソウル(韓国) プリーラム・ユナイテッド(タイ) / 東地区プレーオフ勝者3 |
| 【グループG】 | メルボルン・ビクトリー(オーストラリア) / ガンバ大阪(日本) 水原三星ブルーウィングス(韓国) / 東地区プレーオフ勝者4 |
| 【グループH】 | 広州恒大(中国) / シドニーFC(オーストラリア) 浦和レッズ(日本) / 東地区プレーオフ勝者1 |

2015 J.LEAGUE™ INTERNATIONAL YOUTH CUP at MINAMI NAGANO 2015 Jリーグインターナショナルユースカップ

ユース年代の国際経験値を高め、競技力のさらなる強化を目的に、JFA / Jリーグ協働育成プログラムの一環として昨年12月15~19日、南長野運動公園総合球技場を舞台に「2015 Jリーグインターナショナルユースカップ」が開催された。

参加したのは、浦和レッズユース(2015 Jユースカップ 第23回 Jリーグユース選手権大会優勝)、名古屋グランパスU18(同準優勝)、AZアルクマール(オランダ、2015 オランダ最優秀育成クラブ賞受賞)、全南ドラゴンズ(韓国、2015 KリーグU18 チャンピオンシップ優勝)の4チーム。大会は1回戦総当たりリーグ戦で行われ、3戦全勝の浦和ユースが優勝を飾った。名古屋U18が2勝1敗で2位となり、3位がAZ(1勝2敗)、4位が全南(3敗)と続いた。

Jリーグは昨年3~4月に開催した2015 JリーグU-16 チャレンジリーグに初めて海外からチームを招へいするなど、育成年代の国際試合の機会創出を積極的に推進している。海外に遠征するだけでなく、国内で国際経験を積む意義についてJリーグ強化・アカデミー部の重野弘三郎アシスタントチーフは「国際大会をホストし、国内でも国際経験を積める環境づくりの第一歩が実現した。若手審判の成長の場ともなる。継続することで大会価値を向上させたい」と語った。



© J.LEAGUE PHOTOS

Jユースカップに続いてタイトルを獲得した浦和ユース

お知らせ

「J.LEAGUE™ NEWS」は次号vol.237より電子書籍化します。

